

薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ・・・



2023年
5月25日
第152号



アニス（セリ科）

第二圃場でセリ科特有の傘状花序で白い花が咲いています。4000年以上前からエジプトで栽培されていたという、古くから知られている植物とされています。ただ「アニス」の名称はやや混乱していて、古代のアニスは同じセリ科のイノンド（ディルとも呼ばれる）だったそうですし、果実で同じ香りのするマツブサ科のトウシキミが「スターアニス」と呼ばれたりします。アニスの果実は、日本語ではアニス果、英語では果実なのにアニスシードと呼ばれ、ケーキやクッキーに香料として入れたり、魚介、肉料理のスパイスとして使用したり、アブサンなどのリキュール類に使用します。香りの成分はアネトールで、香りだけならスターアニスやセリ科のウイキョウの果実と同じであるため、それらがアニスシードの代用として使用されることもあります。

ヒルザキツキミソウ

（アカバナ科）

第一圃場で白からピンク色の小さな花がいっぱい咲いています。同属植物のツキミソウとともに、北米原産の帰化植物で、江戸時代に観賞用として日本に導入され、野生化しました。ツキミソウが夕方から朝にかけて咲くのに対して、こちらは昼間にも開花していることから、そのように命名されました。北米大陸の先住民が、ツキミソウの全草をすり潰して湿布剤と使用したり、痔に対して根の煎剤を使用していたほか、近年ではツキミソウの種子から得られる搾油にγリノレン酸が多く含まれることが分かり、アトピー性皮膚炎、糖尿病、乳房痛、更年期障害、リウマチなどを対象とした機能性食品として開発されていますが、ヒルザキツキミソウについては特に薬用として使用する記録は見つけられませんでした。